



英語でポスターを制作し、研究発表を行った事業報告会。発信することの面白さが浸透しつつある



清流の町から世界を見れば 気付かなかった問題が

東海道新幹線で東京から約1時間。静岡県東部にある三島駅で降りると、駅のすぐ南に大きな市立公園が広がる。湧き



世界とつながる 教室

先輩たちは、シンガポールでの研修で水質チェックを実験した



connect with
Vietnam
ベトナム

水の郷から 世界の水を考える

富士山からの湧き水を水源とする柿田川や、「疎水百選」「平成の名水百選」に選ばれた源兵衛川など、豊かな水に恵まれた静岡県三島市。清流と共に育ってきたこの町の高校生たちが、改めて身近な水と世界の問題について考えている。



新2年生を集めて開催されたGWIプレフォーラム(左)。講演中に講師が議題を挙げて生徒同士で話し合う場面も(上)



水の池や、そこから流れ出るせせらぎに心癒される楽寿園は、国土交通省の「水の郷百選」にも選ばれた国指定の名勝だ。富士山の雪解け水に由来する豊富な湧き水は、三島市にさまざまな食品産業や工場を引き寄せてきた。

「この町の高校生は、豊かでおいしい水に慣れ親しんでいるため、水に絡んだ問題はあまり意識せずに生活しています。水問題という点と、むしろ豪雨などの災害を思い起こすことが多いようです」と話してくれたのは、静岡県立三島北高

校の柴雅房教頭だ。「でも、水の豊かな町で生活しているからこそ、世界の水問題を考えることに意味があるのだと思います。私たちが水問題をカリキュラムの中核に据えたのは、それが理由です」三島北高校は、静岡県内唯一のスーパー

グローバルハイスクール(SGH)指定校だ。語学能力や社会問題への理解など、国際社会のリーダーとして活躍できる人材を育成するのが、2014年度から文部科学省が始めたSGH制度の狙いだ。同校では、地域と世界に共通する課題を国際学習の軸に据えようと、水問題をテーマに選んだ。

「この分野の専門家が、実際の活動を基に世界の現状や課題を解説した。講演を担当したのは、開発コンサルタントやJICA専門家、NPO職員など、世界各地で水問題に取り組んできたプロフェッショナルたち。きれいな水を得る難しさや、下水の垂れ流し、水上観光地でのごみ問題などに関する講演を聞き、現地

と考える生徒たちが参加する同好会で、英語でのイベント大会や異文化理解講座などにも積極的に参加している。ベトナム研修で現地の高校を訪問したときに英語でのプレゼンに挑戦し、自ら発信することの楽しさに目覚めた生徒も多い。彼らは、1年の最後に行われる発表でも、周囲を積極的にリードしていた。

日本と世界の課題を知り、自ら考えて世界に発信する。近い未来に国際協力を担う若い世代の視線は、間違いなく世界に向いている。

ベトナム研修では、JICA専門家の案内で水プロジェクトの現場を訪問した

自分の目で見て知る 課題解決の難しさ

三島北高校の2年生たちは、SGH制度が導入された昨年、「地元の水問題(LWI)」をテーマに、毎週1時間、三島市や静岡県の水について学んだ。水質汚染や環境改善、雨水の利用から水災害対策に至るまで、専門家の講義や大学生のアドバイスを受けながら幅広い内容を研究。2月には「事業報告会」を開催し、英語でポスターを作成して成果を発表した。

今年度は、「世界の水問題(GWI)」として、研究の範囲を世界に広げる。その前段階として、3月11日に開催されたGWIプレフォーラムでは、世界で活躍

する水分野の専門家が、実際の活動を基に世界の現状や課題を解説した。講演を担当したのは、開発コンサルタントやJICA専門家、NPO職員など、世界各地で水問題に取り組んできたプロフェッショナルたち。きれいな水を得る難しさや、下水の垂れ流し、水上観光地でのごみ問題などに関する講演を聞き、現地

